



2020年度
第38号

体育市民連帯 ニュースレター

1
カン・シヌク教授
第41代大韓体育会
会長選挙出馬宣言



2
アン・ミンソク議員
インタビュー
＜次期体育会長の条件＞
* 2032 南北オリンピック
* 体育部新設



3
李ギフン大韓体育会長
インタビュー



大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけますか？



01 エムスプールニュース 2020.11.6

【“選手・指導者・行政家”カン・シヌク教授「五輪メダルは誰かの夢だ」】



「運動選手はメダルを首にかけるために一日一日、死力を尽くします。夢に向かって進むのは後ろ指を指される事ではない。エリートスポーツの問題を正し、選手が存分にスポーツができる環境をつくります。」

11月5日、第41代の体育会長選挙出馬を宣言した檀国大学校スポーツ科学大学国際スポーツ学部カン・シヌク（65）教授の話だ。

大韓体育会長選挙は来年1月18日に行われる。カン教授が出馬を宣言し、第41代の体育会長選挙立候補者は3人に増えた。大韓体育会李ギフン会長が再任挑戦の意思を明らかにした中で大韓バレーボール協会ジャン・ヨン

ンダル前会長も選挙出馬を発表している。

- 「選手・指導者・行政家」カン・シヌク教授「オリンピックメダル重要ではない？私の考えは違う」 -
カン・シヌク教授は第41代大韓体育会会長選挙出馬を宣言した席でスポーツ人権と公正性を強調すると同時に、エリート体育についての所信を明らかにした。

カン教授は「エリート体育を正したい夢がある」とし「指導者と選手が流した汗は何よりも大事だ」と述べた。

「時代が変わった。韓国は現在、オリンピックのメダルは重要でない」と主張する。私の考えは違う。エリートスポーツの本質はメダルである。これまでメダルを獲得するために手段と方法を選ばなかった。運動部内の暴言、暴行などはメダル獲得のための過程として見ていた。その過程が間違っていたのだ。過程を正して選手が夢を広げる舞台を作ってあげるのが大韓体育会の役割だ」 カン教授の言葉だ。

カン教授はエリート選手のスポーツ権を確保するための方策の一つとして指導者の処遇改善を挙げた。

カン教授は「選手たちが夢を切り開くために指導者の役割が非常に重要である」とし「若い指導者の処遇を改善してこそエリートスポーツが発展できる」と述べた。

「給料が200万ウォン以下の指導者が多い。ここで指導者は成績に対する負担が非常に大きい。スポーツTOTO基金と国民健康振興基金などを通じて財源を確保する。特にスポーツ界が逃している財源はないか調べる計画だ。たとえば国民の健康増進を目的としてタバコ税をかける。地域住民の健康増進に苦勞している若い指導者が一定の割合を持てるよう努める。いろいろ研究している。限定的な財源を効率的に活用する大韓体育会を作る。」カン教授の言葉だ。

カン教授は生涯をスポーツ界に身を置いている。ソウル大体育教育科を卒業したカン教授は大学時代ホッケー選手として活動した。

カン教授は全農女子中学、龍山高校教師時代はホッケー部監督を務めた。1989年檀国大教授として在職したカン教授は体育市民連帯共同代表（2005～2013）、大韓体育会革新委員会委員（2005～2007）、韓国生活体育国際交流協会会長（2007～2008）、国家人権委員会スポーツ人権政策フォーラム共同代表（2009～2011）、

韓国体育学会長（2016、2017）、大韓体育会理事（2017.01～05）などを務め、スポーツ界の発展に大きく貢献した。

出典：https://www.mbcsportsplus.com/news/?mode=view&cate=&b_idx=99793851.000#07D0

02 スポーツ朝鮮 2020.11.04

アン・ミンソク議員

“次期体育会長の条件は 2032 南北オリンピック、体育部新設”



「私はそんなに力のある人でしたか？ハハハ」

KOC 分離の議論、トーマス・バッハ国際オリンピック委員会 (IOC) 委員長の訪韓不発、来年の大韓体育会会長選挙などをめぐり、いろいろ説が飛び交うスポーツ界、「カドラ（訳注：慶尚道方言に由来する新造語、出处も不明確で真偽のほどがはっきりしない伝聞情報のこと）」の果てには間違いなく「アン・ミンソク」という

名前三文字が出てくる。「文体部スポーツ革新委と KOC 分離後にはアン・ミンソク議員（共に民主党）がいる」「アン・ミンソク議員が大韓体育会会長候補に特定の人を押ししている」式だ。

2 日、ソウル汝矣島の国会議員会館 920 号で会った議員に「ファクトチェック」をするとすぐ「私はそんなに力のある人でしたか？」という答えが返ってきた。「私は一生を体育改革のために献身してきた者だ。1970～1980 年代の成績至上主義の論理でスポーツ既得権を守る人、既得権に共生するジャーナリスト、学者、体育人等々、革新に反対する人々がそのような話を広げる。10 年前に学校体育振興法に反対していた人たちが同じようにスポーツの革新に反対している。「メッセージ」ではなく「メッセンジャー」のアン・ミンソクを攻撃して革新を阻止しようとするだろう」と言った。

▶2032 年ソウル - 平壤共同オリンピック、2045 年の南北統一のビジョン

ソウル大体育教育学科学籍番号 82 番、中央大学社会体育学科教授、スポーツ社会学者出身のアン議員は選挙区、京畿道烏山市で 5 選議員として 21 代国会に再び入った。19 代国会で大韓体育会と国民生活体育会の統合を導き、20 代国会では文化体育観光委員長として働いており、21 代国会で外交統一委員会として働いている。

「体育にとっても興味があるようですが、なぜ外交統一委員会に行かれたのか」という質問にアン議員は、「2032 年の南北共同オリンピックのため」と即答した。「2032 ソウル - 平壤共同オリンピックのアイデアは私が出したものだ。南北共同オリンピックの前提は非核化だ。非核化を介して韓半島の平和が行われれば、誘致可能性は非常に高い」と断言した。「第一に、南北首脳が合意した内容だ。第二に、サムスン李ジェヨン副会長が意志を持って半月ほど前、バッハ委員長とも会った。サムスンは 2028 年まで IOC に 1 兆 5000 億ウォンを後援するトップスポンサーだ。第三に、分断国家朝鮮半島の平和と調和はオリンピック精神を満たしている」と説明した。アン議員は「バッハ委員長も南北共同オリンピックの趣旨に共感することを知っている。オリンピックを開くことになればバッハ委員長が平和特使として南北を歩き来し、ノーベル平和賞の候補に上がるだろう」と期待した。

アン議員はスポーツを通じた南北統一の青写真を具体的に提示した。「来年から南北が共同誘致活動を開始

すれば 2022～2023 年の誘致決定が出る可能性がある。来年、外交統一委員会委員を中心にソウル - 平壤共同オリンピックを促す決議案を推進する。2032 年のオリンピックを通じて南北の精神的、文化的統一がなされ、解放 100 年となる 2045 年の政治的統一が実現する。文体部、外交部、統一部長官とこのロードマップを共有した。」

▶KOC 分離拒否はプラザ合意違反の「食い逃げ」

最近スポーツ界の最も熱い話題である KOC 分離の話が出るとアン議員は、テーブルの片隅で 2014 年 11 月 6 日「プラザホテル合意文」を取り出して見せた。当時、金ジョン文体部次官、金ジョンヘン大韓体育会長、ソ・サンギ国民生活体育会長、アン議員が両体育会統合に合意して署名した内容である。「KOC 分離するかどうかは 19 代国会で継続的に議論する」という別の規定が火種を残した。19、20 代を過ぎて 21 代国会まで尖鋭な争点となっている。「その時、なぜ KOC 分離まで一度にしなかったのか」という質問にアン議員は、「当時も政府は KOC 分離を望んでいたが大韓体育会の反発が激しかった。統合自体が合意できない状況で、一種の譲歩と妥協、順次統合を模索していたもの」と明らかにした。

アン議員は「平昌オリンピックが終わった後、KOC を分離しようという裏の合意があった」と主張した。「ところが、今になって KOC 分離をできないというのは生活体育会だけ飲み込んで「食い逃げ」するものである。平昌五輪後、真剣な姿勢で約束を守らなければならないが、スポーツマンシップにも合わない」と言った。「もちろん分離が絶対的な線とは見ていない。しかし、大韓体育会が分離を決死抗戦しながら反対することは、約束を破る行為」だと主張した。

KOC が分離される場合、最大の争点は予算や人材が伴う「業務分掌」である。つまり、オリンピックに出るエリート選手の発掘と育成システムを大韓体育会と KOC のどちらが担当するかの問題だ。アン議員は「KOC はスポーツ外交に専念しなければならない。韓国にスポーツ外交の専門家がいるのか。専門家を育てるシステムがない。日本のオリンピック委員会 (JOC) だけでも 40 人のスポーツ外交専門家がいる。大韓体育会国際体育課は職務ローテーションだ。構造的に専門家が現れない」と主張した。「エリート養成は大韓体育会が行い、KOC は大韓体育会が養成した選手を KOC が派遣する。国際業務のみすること」だとした。

アン議員は「文体部が李ギフン大韓体育会長に 2 ヶ月前“政府の方針は KOC 分離だから、分離した後李会長が KOC 委員長をして、大韓体育会会長は選出しよう”と提案したが李会長が拒否した。その後、IOC から KOC 分離を懸念する文書が来た。IOC 公文書の意図について大統領府も問題意識を共有している」と主張した。

「大韓体育会は必要ときは政府の干渉から独立した NOC であり、予算を受けるときは大韓体育会だ。4000 億ウォンの政府予算を受ける限り管理監督も当然受けなければならない」と言った。

▶ムン・ジェイン政府の体育政策、スポーツ革新の評価

アン議員は「スケート界の性暴力疑惑事件、故崔スクヒョン事件などは人権を重視するムン・ジェイン政府としては本当に痛いこと」と振り返った。「20 世紀は人権よりメダルが優先的な価値であったが、21 世紀にはメダルより人権が大切な価値だ。大統領もメダルより人権が優先的な時代という言葉が何度も言われた。これがスポーツの時代精神」とであると強調した。

アン議員は「文体部傘下のスポーツ革新委が出した 8 回の勧告は、この時代精神を込めたスポーツ革新のバイブルだ。スポーツ人権と学習権が重要な価値」とし「この革新に反対することは、メダルのために反人権と暴力を容認しようということだ」と主張した。アン議員は趙グク前法務部長官の側近説で問題となったムン・ギョナンススポーツ革新委員長の人選過程も詳細に説明した。「趙グクの機会に天下り任命されたというのは偽のニュースだ。同僚ジャーナリストが推薦したし、本人は固辞したがト・ゾンファン当時の文体部

長官が何度も依頼の末に決まった人権の専門家」と主張した。

アン議員は「今の選手たち自らトレーニングをし、勉強しながらスポーツをして大学も行って、米国、日本のように医師、弁護士が出てくるようなスポーツ先進国にならないといけない。すぐには大変でもまず開始しようということだ」と言った。「2010年から求めてきた“勉強する選手”政策と学習権が現場に定着するまでには逆説的にもジョン・ユラが大きな貢献をした。中・高、大学での学生選手の学士管理を徹底させている。ジョン・ユラが改革を10年早めた」と評価した。

▶次期の体育会長はスポーツ革新を主導し、政府とコミュニケーションできる人

来年1月18日、第41代大韓体育会長選挙を控え李ギフン会長が再選を狙う中、カン・シヌク檀国大教授、ジャン・ヨンダル前議員。趙ジェギ国民体育振興公団理事長、ユ・ジュンサン、李ドンソプ、ムン・デソン前議員などの出馬説が出ている。この中で、ある候補はアン議員が押す候補だとの噂が広まった。アン議員は「特定の人を支持しない。スポーツ革新の意思を共にする方なら誰であれ支持する」と線を引いた。

「今回の選挙は革新と反革新の銃声のない戦争になるだろう」と規定したアン議員は、自分が考えている次期の体育会長の条件を述べた。「まずスポーツ革新を通じてスポーツ先進国とする人、第二に政府とよく協力してコミュニケーションし、スポーツの発展を遂げる人でなければならない。体育会は政府の政策に従い、政府と一体のように動かなければならない。大韓体育会は市民団体ではなく、年間予算4000億を政府支援に依存して動く政府傘下の団体だ。今のように体育会が政府と対立関係にあるのは有史以来初めてだ。大韓体育会が政府に反旗を上げることは、国家の規律の問題だ。今のような混乱と無秩序を望む体育人はいない。政府との関係正常化が急がれる」と主張した。

“第三に、統合体育会の趣旨をよく理解し、学校 - 生活 - エリート体育の共生発展を遂げる人でなければならない。しっかりした草の根スポーツの土台の上にエリート体育を花咲かせなければならない。第四に、大韓体育会と地方体育会の垂直的な上意下達関係がない水平的で協力的な関係を実践する人でなければならない。私が21代国会で最優先に代表発議した「地方体育法人化法」が今回の定期国会で通過すれば、地方体育の財政安定が可能になるものであり、体育の中心軸が中央から地方に移動するきっかけになるだろう」と話した。

▶体育庁？それ以上の「体育部」が必要である

学校体育に格別の愛情を持ったアン議員はコロナ時代に教育部、文体部など政府の体育専門家が不足して、スポーツの価値に対する認識も不足している事について認識を共にした。体育専門ガバナンスである「体育庁」の必要性を尋ねると、アン議員は「体育庁にはならない。国民健康時代と南北共同オリンピックのために、それよりも改善された“体育”が必要だ」と答えた。「次期大統領選挙の時に共に民主党候補の公約として提案して貫徹する」と約束した。「1988ソウルオリンピックのために体育部を作った前例がある。一部で主張する体育庁では時代のニーズを盛り込むのに限界がある」と見た。「体育部は教育部の学校体育業務を含めて生活体育、エリートスポーツ全般を体育が管掌する必要がある」と述べた。「現行の学校体育を教育部が、生活 - エリート体育は文体部がする断絶行政システムは非効率的である。体育を通じて体育人材を積極的に登用して活用する一方、指導者の身分安定の問題も解決するようにする」と述べた。

予定された時間を遥かに越えたインタビューの終わりに、アン議員は最終的に必ずしたい願いがあるとした。「大韓体育会をはじめスポーツ団体を体育人に返さなければならない。各種目の会長を体育人が務める時代にならないといけない」と述べた。「協会長として活動していたチュ・ウォンホン監督（テニス）、バン・ヨル監督（バスケットボール）、ユ・スンミン IOC 委員（卓球）などが良いモデルである。体育人の中

で適任者が出るように体育自ら共感を形成して欲しい。不十分でも体育団体は体育人が引き受けなければならないし、企業、政治家たちは助けてあげる役割が望ましい。体育団体は体育人にスポーツ界の「破邪顕正（^{ほしやくけんしょう} 邪悪をうち破り、正しい道理をあらわし広めること）を期待する。」

出典：https://www.chosun.com/sports/sports_photo/2020/11/04/MDXEDDCFLNQFLP5MRTY4NHSMVE/

03 東亜日報 2020.11.03

「すべての学生が楽しむ学校体育正常化

… 2032年の南北共同オリンピック誘致の目標」



“すべての国民が揺りかごから墓場までスポーツをしてください。

最近会った李ギフン大韓体育会長（65）に新しい100年に向けて韓国スポーツが行くべき方向を尋ねると、上記のような短い明快な答えが返ってきた。1920年に発足した大韓体育会は、今年創立100周年を迎えた。3日午後2時半、ソウル松坡区オリンピックホールで100周年イベントを開催する。

4年間、統合大韓体育会を導いた李会長は体育現場の目標設定から間違っていると指摘した。学校体育がなおざりにされている構造的な問題が国民の健康はもちろん、韓国スポーツの競争力まで落とすこと。李会長は「幼いころ運動した人が

歳をとっても運動をする、現在は全くそのような仕組みが備わっていない」と述べた。彼はまた、「最近繰り返し発生するあらゆるスポーツ界弊害の原因も結局学校体育が崩れたことから見つけることができる」と断言した。

李会長は「“運動選手は勉強しなければならない”と圧迫するのではなく、“一般学生も運動をしなければならない”という方向に逆転の発想をしなければならない」とし「学生は運動をしながら粘り強さと素養を磨き、公正のルールを学ぶ。その過程で素質に優れた専門の選手も出てきて、体育関連の仕事もたくさん生まれるだろう」と述べた。彼は「1年で体育専攻者が2万人ほど社会に排出されるが職がないから同類で争い不正の死角地帯が発生する。職が十分に確保されれば問題を起こす理由がない」とし「学校体育が垣根を越えて人権と公正を確保した生活体育専門体育につながり、国民に広がること、これがまさに体育先進だ」と強調した。

7月のトライアスロン故崔スクヒョン選手の暴力と人権侵害事態以後、スポーツ界への変化と革新要求が大きくなっている。李会長は「全国にリーダーは2万人、選手は14万人が登録されているが、彼らが何をしているのか大韓体育会が全てを知るのは難しい。市道体育会、チームを運営する地域自治団体と種目別協会・連盟の権限と責任が明確でないことから抜け穴が多い。大韓体育会では今、整理作業をしている」と述べた。

同時に大韓体育会の教育の役割は大幅に強化されなければならないという立場だ。大韓体育会は全南長興（^{ジャンフン}）に体育教育センターの建設を進めている。李会長は「司馬光（訳注：1019年～1086年、中国の儒学者、歴史、政治家）は、彼が書いた資治通鑑で教育的に人の思考体系と組織文化を変えるのが優先だとした。単発的な教育ではなく、職務、忍耐力、素養教育の機会を段階的、レベル別に長い期間提供する必要がある」とした。

李会長はまた、国民すべてがスポーツを楽しむ時代を開くために体育行政を総括する政策機構の新設を提案した。「軍人体育は国防部、女性スポーツは女性家族部など体育業務が 10 以上の省庁に散らばっている。体育部や総理室傘下の国家体育委員会のような「コントロールタワー」を新設して機能を一つに集めれば、予算も削減されて効率的な管理も可能である。」

国際オリンピック委員会 (IOC) 委員でもある李会長は 2032 年の南北共同オリンピック誘致を韓国のスポーツの未来 100 年の重要な目標として提示した。「誘致が確定された 2024 年江原冬季ユース五輪を通じて平壤と馬息嶺（訳注：北朝鮮国営スキー場）でも競技を行ない、これを飛び石にして 2032 年の南北共同オリンピック誘致に導く。このプロジェクトがうまく進めば、光復 100 周年の 2045 年にはスポーツが平和と統一の変化を導く基礎となると思う。」

出典：<https://www.donga.com/news/article/all/20201103/103764222/1>

スポーツ暴力根絶キャンペーン

プロジェクト「^{ウムジク}動き」Project Umjik

故崔スクヒョン選手が私達の傍を去って数か月が過ぎました。全世界に伝わりましたが一体何が変わったのでしょうか？加害者は処罰を受け、文体部は特別調査結果を発表しました。しかし依然として責任を取るべき人は存在します。そのまま時間が流れれば多くの被害者が再び「やはり今回も変わりがないな」と教訓を得るのではと心配です。

ですから「動き」を始めました。私達が愛するスポーツから暴力の根を絶つために市民が声をあげなければなりません。プロジェクト「動き」に賛同していただくことを願います。

*参加方法

1. 自分がいつもする運動や表現したい動作を撮影します。写真または文字でも置き換え可能です。自分を写して送るのが難しければ数行の文を書くとか自由な方法、どんなことでも良いです。大韓民国スポーツ界から暴力を無くし、人権を保護しなければならないという意味を表現する、どんな事も良いです。
2. 上の意味と方法をコピーして自身の表現（動作、文字、絵など）を SNS にあげます。
3. 次の走者を 3 名、指名します。
4. 指名した方に連絡をとって趣旨を説明し賛同をお願いします。

暴力が無くなったスポーツ界を想像します。尊重と人権が河の流れのように流れるスポーツ界を想像します。今、一緒に動いて下さい。

#スポーツ人権キャンペーン

スポーツ界人権侵害情報提供および支援活動案内



体育市民連帯は

「トライアスロン選手死亡事件共対委」と

「民主社会のための弁護士会スポーツ人権チーム」所属

10数人の人権弁護士の方々と一緒に

被害者相談および法律支援活動を行います。

スポーツ界人権侵害情報提供がされたら

初期相談を通じて法律支援が必要な方々を支援します。



下のアドレスに情報提供して下さい。

共同対策委員会



forsportsreform@gmail.com

体育市民連帯



sports-cm@daum.net

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援をお願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

http://www.sportscm.org/index.php?module=Inquiry&action=SiteInquiry&sMode=INSERT_FORM&inquiryNo=2

INFOMATION

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com